

研究に関するお知らせ

トレーニーによる大腸内視鏡検査における AI 併用の有用性に関する検討

2026 年 3 月 6 日

国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター消化器・肝臓内科では、以下にご説明する研究を行います。この研究への参加を希望されない場合には、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはございませんのでご安心ください。

■研究目的・方法

大腸癌は世界的に罹患率および死亡率が高い悪性腫瘍であり、本邦においても主要な癌死亡原因の一つとなっています。大腸癌の多くは腺腫性病変を前駆病変として発生することが知られており、腺腫段階での早期発見および切除が予後の延長に寄与すると考えられています。しかしながら、現在の内視鏡診療には重要な課題が存在しており、病変の見落としの問題や、病変の診断精度が術者の熟練度に依存する点が挙げられます。これらの課題を解決する革新的技術として、人工知能 (Artificial intelligence : AI) が近年注目されており、病変の検出や診断を支援する内視鏡 AI が実臨床で使用されるようになっていきます。

現在、当院では検査の質の担保として、トレーニー (後期研修医) 実施時は上級医が指導につき、病変の拾い上げや質的診断の補助を行っています。しかしながら、同体制は 2 名の医師を要するため、働き方改革も進む中、今後は検査の効率化と持続可能な体制構築が求められています。

そこで本研究では、AI 併用下でトレーニーが単独で実施した検査 (AI 群) と、従来のトレーニーと上級医が共同で実施した検査 (非 AI 群) を比較し、内視鏡 AI が従来の検査体制における上級医の補助的役割を代替し得るのかを明らかにすることを目的として、AI 併用下大腸内視鏡検査の有用性および限界について検討します。

なお、AI 搭載ブースと非搭載ブースの使用は当日の内視鏡室運用に基づき決定され、研究のために意図的な割付けを行うことはありません。また、本研究で使用する内視鏡 AI は診断支援を目的とした補助ツールであり、AI の結果のみで診断や治療方針を決定することはなく、最終的な臨床判断は常に医師が行います。

■研究期間

理事長承認日～2028 年 3 月

■研究の対象となる方

2026 年 4 月～2027 年 3 月の期間に当院で大腸内視鏡検査を行った症例を対象とします。

■研究に用いる資料・情報の種類

上記の対象期間中に診療録および内視鏡レポートに記録された診療情報（年齢・性別、検査情報、内視鏡所見等）を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則って個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

■利益相反について

利益相反の状況については国立健康危機管理研究機構利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関する研究全体及び研究者個人として申告すべき利益相反の状態はありません。

■研究計画書等の入手・閲覧方法・手続き・手続きにかかる手数料等

あなたのご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究で収集させていただいたご自身の情報を当院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■研究責任者：

国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター
消化器内科診療科長 矢田智之

■お問い合わせ先

国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター
千葉県市川市国府台 1-7-1

Tel: 047-372-3501(代表) 受付日時： 平日, 9時から 16時半

研究責任者 国立国府台医療センター 消化器内科診療科長 矢田 智之

研究分担者 国立国府台医療センター 消化器内科医師 渡邊 亮

国立国府台医療センター 消化器内科医師 伊藤 光一

国立国府台医療センター 消化器内科フェロー 内田 絵理香

国立国府台医療センター 消化器内科レジデント 富山 毅

■掲示場所・交付場所

消化器・肝臓内科 診察室および外来窓口